

東京大学 生産技術研究所 **第5回**

災害時の広報戦略

防災新時代

東日本大震災のような広域的な災害では、ある特定の地域や内容に集中した報道が多くなる。その結果、物資や義援金などの支援が偏ることになり、被災者の対応に大きな差が生じる。これは「報道する側」と「報道される側」の両者が災害の全体像の把握に努め、現象先取り、減災行動誘導型の対応をしなければならない。

報道の集中と義援金の関係

東日本大震災では、取材者がアクセスし易い地域や早期にインパクトの高い被害状況を取材できた地域など、特定の市町村に報道が集中した。図1は、東日本大震災における人的被害と報道回数の関係である。これによると、人的被害と報道回数の関係性は弱い。つまり、人的被害が同規模であっても報道回数に極端な差があることを示す。一方で、義援金と報道回数の関係を見ると、強い相関が見られる(図2)。つまり、被害の程度に関係なく、報道回数が多いと義援金が集まりやすいことを示している。

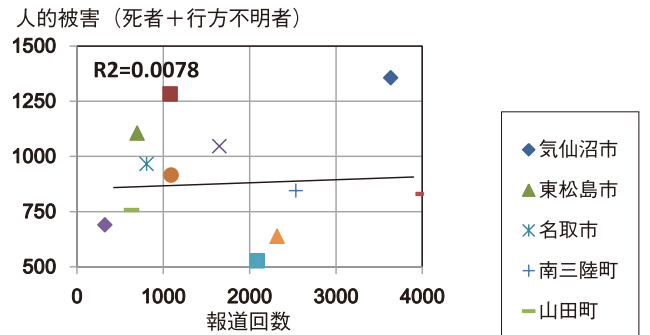


図1 人的被害と報道回数の関係

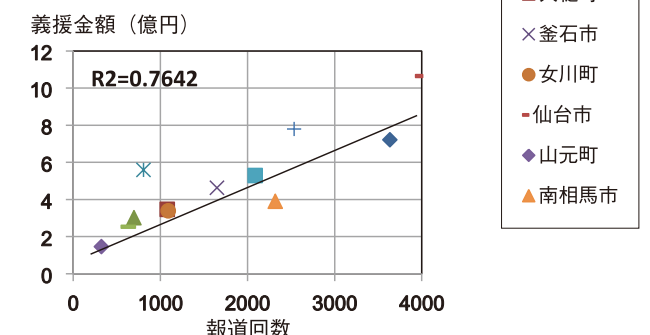


図2 義援金と報道回数の関係

報道される側の姿勢

報道される側の市町村の姿勢も大切である。特に、発災時には災害対応の最前線で指揮を執る市町村長の役割は重要である。平時から地域の状況をアピールする場として、マスメディアを戦略的に活用していなければ、災害時の混乱した中で、地域に防災対応上、有利に働く発言はできない。

首長のマスメディアの活用状況

「静岡新聞データベース plus 日経テレコン」を使い各首長がどの程度、取り上げられているのかを把握する(図3)。

これによると浜松市長が最も多く取り上げられており、静岡市、袋井市と続く(記事数A)。在任期間との関係を見ても、長期に在任しているからといって記事数が増える傾向は見られない(在任日数B)。これは、4,533件の浜松市長と同程度(約3,000日)の在任期間の首長は他にも多い。浜松市は多くの話題があるため報道件数も多くなるとも考えられるが、積極的に発信していることも事実である。袋井市長と東伊豆町長も在任期間が同程度であるが、それぞれ2,032件と216件で約10倍の差がある。

また在任期間中、一日平均で取り上げられている記事数を見ると(A/B)、川根本町長は記事数としては697件で中程度であるが、一日で見ると1.2件とほぼ毎日取り上げられていることが分かる。逆に、例えば記事数が3番目に多い袋井市長は、0.6件と2日に1件のペースとなり、順位が低下する。

広報戦略の立案

災害時、被災市町村はマスメディアと効果的に連携し、現象先取りで被害状況を発信することで、迅速かつ適切な災害対応ができる。例えば、地域の基幹産業が観光業の場合には、早期に適切な情報を発信することで風評被害を発生させないようにすること、逆に観光客がこれを機会に増えるようなプラスの効果を発揮する情報も発信できる。そのためには、**平時から広報戦略を意識するとともに、災害時の広報のあり方も事前に計画する必要がある。**

市長名(市町村)	在任期間一日の平均記事数(A/B)		
	記事数A	記事数B	在任日数B
田辺 信宏(静岡市)	1.6	2,445	1,505
鈴木 康友(浜松市)	1.5	4,533	2,948
鈴木 敏夫(川根本町)	1.2	697	588
小長井 義正(富士市)	0.9	468	493
中野 弘道(焼津市)	0.9	761	884
染谷 綱代(島田市)	0.7	531	728
豊岡 武士(三島市)	0.7	1,094	1,619
栗原 裕康(沼津市)	0.7	1,610	2,389
松井 三郎(掛川市)	0.7	1,469	2,224
渡部 修(磐田市)	0.6	1,412	2,224
須藤 秀忠(富士宮市)	0.6	842	1,491
原田 英之(袋井市)	0.6	2,032	3,685
北村 正平(藤枝市)	0.6	1,389	2,532
相馬 宏行(河津町)	0.5	191	396
西原 茂樹(牧ノ原市)	0.5	1,630	3,496
高村 謙二(裾野市)	0.4	201	483
小野 登志子(伊豆の国市)	0.4	317	763
齊藤 栄(熱海市)	0.4	1,238	3,177
太田 順一(菊川市)	0.4	1,354	3,769
佃 弘巳(伊東市)	0.4	1,288	3,650
石原 茂雄(御前崎市)	0.3	1,296	4,056
三上 元(湖西市)	0.3	1,131	3,824
若林 洋平(御殿場市)	0.3	602	2,300
楠山 俊介(下田市)	0.3	269	1,056
込山 正秀(小山町)	0.3	373	1,487
菊池 豊(伊豆市)	0.2	585	2,588
森 延彦(函南町)	0.2	384	1,872
田村 典彦(吉田町)	0.2	785	4,410
梅本 和照(南伊豆町)	0.2	120	742
山本 博保(清水町)	0.2	462	2,999
遠藤 日出夫(長泉町)	0.2	539	3,516
村松 藤雄(森町)	0.1	783	5,556
齋藤 文彦(松崎町)	0.1	240	1,990
藤井 武彦(西伊豆町)	0.1	266	2,224
太田 長八(東伊豆町)	0.1	216	3,349

図3 首長別の記事数 (2015年5月現在)

■ 筆者紹介

沼田 宗純氏 (めまだ・むねよし)

1977年神奈川県秦野市生まれ、東京大学大学院情報学環 / 生産技術研究所講師 専門は、防災プロセス工学。防災活動をプロセス化することで、標準化した防災システムを構築し、全国への普及展開を図っている。

